

実戦意識し紅白戦

中村 打撃の成果に手応え

センバツ 2017

3月19日開幕のセンバツに出場する中村は、紅白戦を開始するなど、実戦を意識した練習に選手たちが励んでいる。

2月19日に取り組んだ今季初の紅白戦。久しぶりのゲームにもス

イングは鋭く、選手たちは快音を連発し打撃戦になった。

選手16人で2人足りないため、捕手は中野聖大捕手(2年)が紅白両チームで掛け持ちし、渡辺大晴選手(3年)が内野手として参加するなど工夫。守備でのカバーなど課題も見えたが、一円優太選手(2年)は「冬場に振

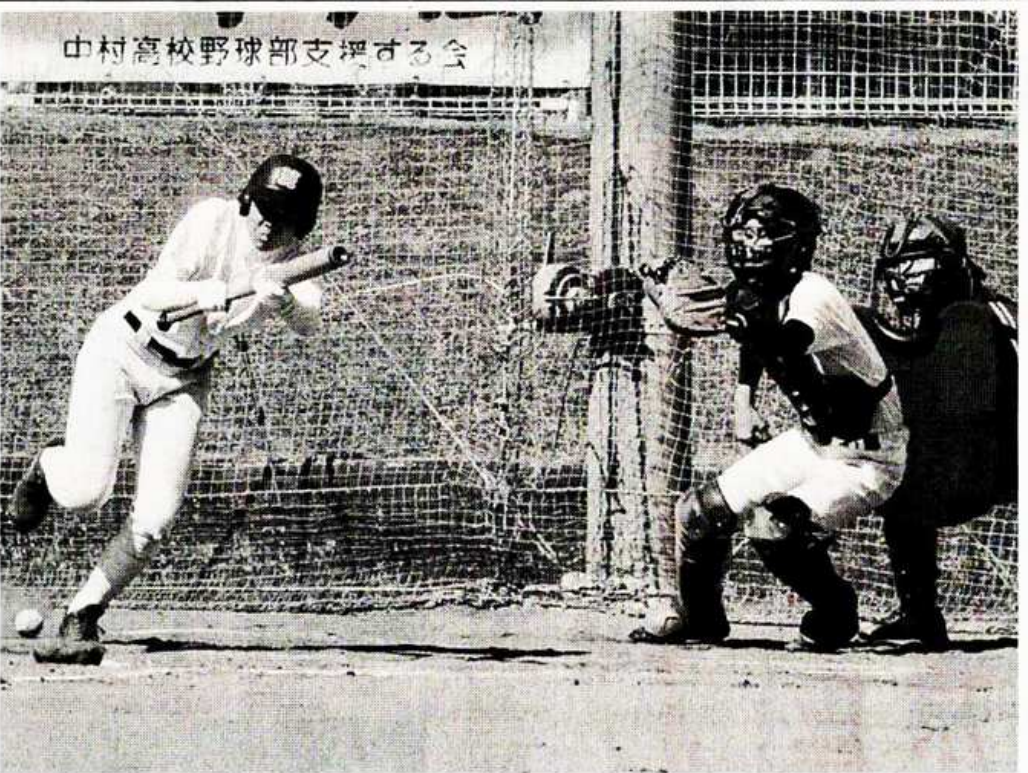
り込んだ打撃の成果が出せている」と手応え。

また、同日夕には保護者を招き、チームが取り組んできた「メンタルトレーニング修了式」が開催された。中村では約2年前から「サクセスプラン研究所」(大阪府)の深川英伸さんに依頼し、水曜日のミーティングなどを活用してトレーニ

ングを実施。いい習慣を生活の中に根付かせる「こと」などを学び、実践してきた。

修了式では、選手とマネージャーが一人ずつ、成果を保護者の前で発表した。武田晴仁選手(2年)は持久力不足を克服するため早朝の「坂ダッシュ」を習慣化できたことなどを話し、「地域の方へのあいさつなど、これから積極的に取り組んでいきたい」と決意を述べた。

【岩間理紀】



中村高校野球部支援する会



①紅白戦に真剣な表情で取り組む選手たち②メンタルトレーニングで得たことを発表する選手たち

③いずれも四万十市中村丸の内の中村高で